

2021年 第2回

定例会報告

様々な視点で一般質問を展開

～県民クラブ所属議員の質問を紹介～

私が所属している県民クラブでは、質問者がそれぞれの視点で質問項目・内容を考え、協議の場での報告を経て登壇しています。

今回、一般質問に登壇した県民クラブの4名の質問を紹介します。

馬場 林 県議（中津市選出・3期目）は最低賃金について質問。

現在、政府は最低賃金を引き上げ、全国平均で千円を目指す方針を示していますが、大分県は秋田県や佐賀県、沖縄県など5県とともに全国最下位の792円です。

「大分県の経済状況から見て全国最下位は疑問。この影響をどのように考えているのか」という馬場県議の質問に対し、県は「今後他県との賃金格差が拡大すると、優秀な人材確保という観点から本県企業にとってもデメリットであると考えている」と答弁しました。

最低賃金は公益代表、労働者代表、使用者代表の委員で構成される最低賃金審議会において決められます。コロナ禍で落ち込んだ経済回復のためにも、最低賃金の動向に注視しています。



守永 信幸 県議（大分市選出・3期目）は、JR九州の駅の無人化問題を取り上げました。大分県には85駅がありますが、そのうち47駅が無人とのこと。

さらに、JR九州では日豊本線と豊肥本線で、監視カメラやインターホンを設置し、始発列車から最終列車までの間を「サポートセンター」のオペレーターが見守るスマートサポートステーション（通称SSS）方式で無人化をこれからも進めると表明しています。

守永県議は、「駅の無人化が障がいのある方だけでなく、利用する誰もが突然困惑する状況に置かれる可能性があるのでは」と指摘しています。



「首都圏に九州ブランドのPR拠点づくりを進めてはどうか」という提言で、5月にリニューアルオープンした大分県のアンテナショップ「坐来（ざらい）大分」を取り上げたのは**木田 昇 議員**（大分市選出・2期目）。

「坐来大分」は「食に情報をのせて」をコンセプトに、レストラン型アンテナショップのさきがけとして銀座の地で2006年にオープン。朝メされた関さば、おおいた和牛、季節の地野菜など上質な食を提供していました。

これまで、人気テレビ番組「ぐるぐるナインティーン」の『ゴチになります』のコーナーなど多くの情報番組で取り上げられてきました。

入居していたビルの立て替えに伴い、今回、東京都楽町の一等地にできた新築ビルに移転。これまで以上に大分の魅力発信が展開できるものと期待されています。

ちなみに、「けっこうな価格…」との噂で、原田は一度も食べたことがないのですが、「坐来大分」での食事付き東京泊パック旅行商品もあるとのことですから、コロナ感染症が落ち着いて東京に行かれる際に行かれてみてはいかがでしょうか。



写真は坐来大分HPより

行政書士・社会保険労務士でもある**浦野 英樹 議員**（大分市選出・1期目）が取り上げたのは「孤独死」。ちょっとショッキングな話ですが、質問を聞いていて社会問題として認識しておくべき課題だと感じました。

現在、少子化や核家族化の進展により、大分県でも単身世帯の割合が増えており、直近の国勢調査では全世帯の3分の1を占めているそうです。孤独死の増加の要因として、昔に比べ近所付き合いなど地域との関わりが希薄になっていることなのでしょう。

浦野議員は、行政の責務として「孤独死は私たちの身の周りで起きうることを周知することや、「孤独死に至る前に、必要な支援や情報を当事者に届ける」ことを進めるべきではないかと提言しました。



私が所属しています県民クラブもHPを開設していますので御覧下さい。

<http://www.oct-net.ne.jp/kenmin-club/>

大分県議会 県民クラブ

検索

